

# 宮ノ陣ビオトープ新聞

第 7 号

(2020年3月)

宮ノ陣学びのビオトープ

2016年9月創刊 季刊

発行

くろめハイトラスト株式会社

久留米市宮ノ陣町八丁島 2225 番地

〒839-0805 TEL0942-27-7515

協力 株式会社エコプラン研究所

宮ノ陣学びのビオトープから生き物や季節の情報をお伝えし、豊かな久留米市の将来へのライフスタイルを提案する新聞。

にならないよう、学びと整備を段階的に行っています。  
また、北九州市には「ほたる館」というホタル専門の施設があり、ここでは、市民が人工飼育を行う「マイ・ホタル制度」により、一年中ホタル（ヘイケボタル）が見られます。二〇一九年五月二十六日（日）に開催した講座では、ほたる館の館長の新海さんを講師に招き、公募による約二十人の市民がホタルの生態や人工飼育の方法を学びました。講義の中では、ホタルの一生（卵↓幼虫↓さなぎ↓成虫）のうち、光るのは成虫だけでなく、卵や幼虫も光ることが写真で紹介されました。参加した児童は、「卵が光るとは知らなかったのでびっくりした。」と言っていました。講義に続いて、実際にホタルを人工飼育する装置により、ホタルの卵から幼虫、蛹までの様子を見ることができました。講義を通して下の図のようにホタルが生息し続けるには、様々な条件が必要だとわかりました。

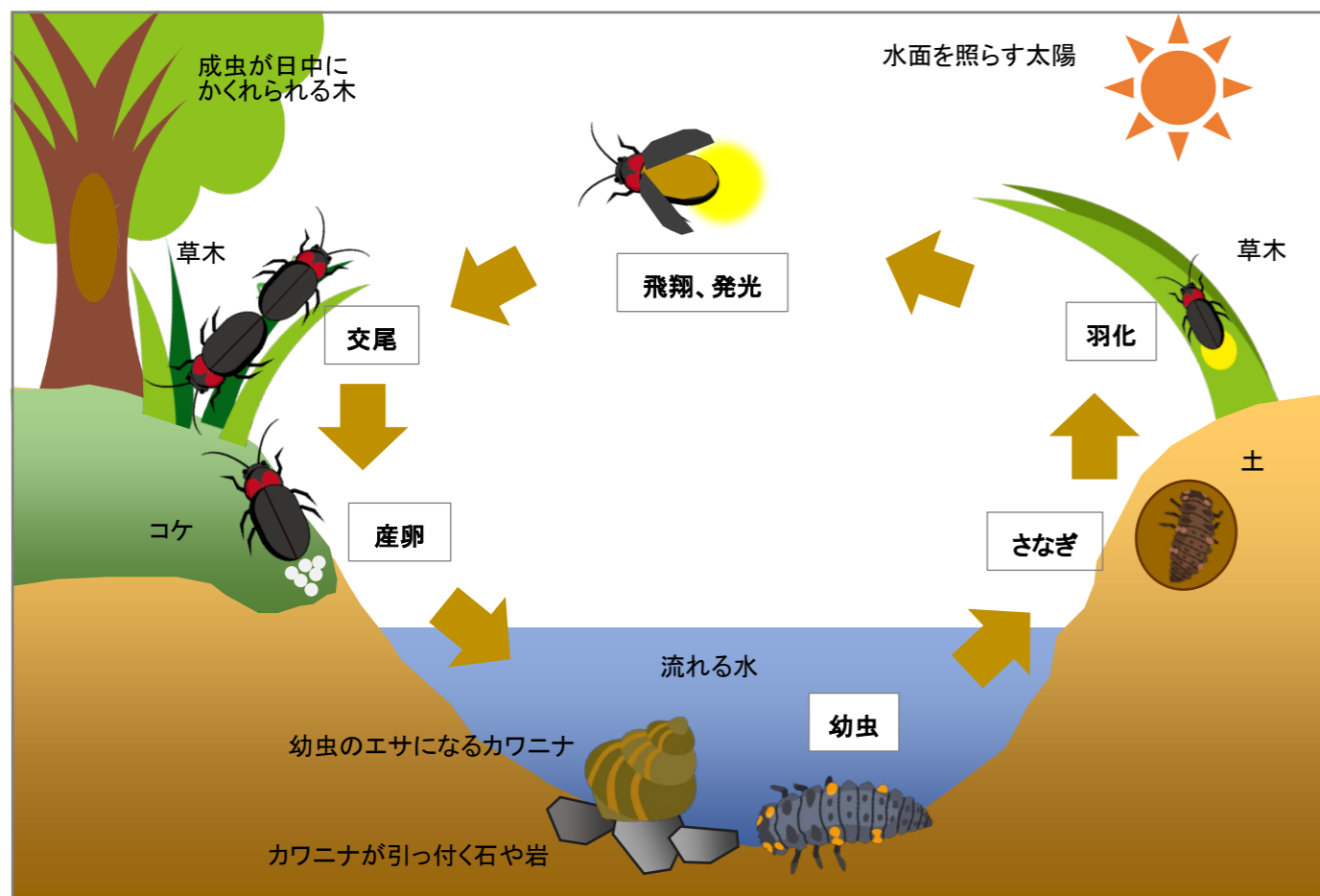


図 ゲンジホタルの一生



ホタルの人工飼育の装置を前に説明するホタル館の館長(右)

**ホタルは幼虫や卵も光るってホント？**  
**ホタルの先生に聞いてみた**

宮ノ陣学びのビオトープでは、池内に生息できる生き物がくらせる環境を整えるために、様々なテーマで学習や実践活動を行ってきました。その中には、ビオトープでホタルが見られるような取り組みも行ってきましたが、その一環として、ホタルの専門家を招いて人工飼育の方法を学びました。

宮ノ陣学びのビオトープでは、これまでホタルに関する講座を行ってきましたが、その一つとして、「ホタルを育てる大作戦！」と題し、ホタルの専門家を講師に招き、人工飼育の方法を学ぶ講座を開催しました。

日本に生息するメジャーなホタルの種類であるゲンジボタルとヘイケボタルは、生息環境が異なります。ヘイケボタルの幼虫は、田んぼなどの止水域に、ゲンジボタルの幼虫は川など流水域に生息します。宮ノ陣学びのビオトープには、ゲンジボタルの生息を想定した水が流れる水路があります。これまでの講座では、ホタルの生態について学んだ後、実際にホタルが飛翔する姿を観察したり、ホタルの生息場所を観察したり、ホタルの幼虫の棲み処を整備したり、複数回に渡り、様々な取り組みを行ってきました。抽速にホタルの成虫を放流し、その時は見られても、生息し続けられないこと

## 宮ノ陣とホタル

宮ノ陣は、久留米市の北部、その北側には宝満川が、南側には筑後川が流れ、田畑が広がる風光明媚な地域です。宮ノ陣学びのビオトープのコンセプトは、かつての風景を取り戻すのではなく、市民が生き物や自然について、体験しながら学ぶ空間となっています。上の図のようにゲンジボタルは、様々な環境と生き物のつながりが必要です。ゲンジボタルの生態を学びながら、生息できる環境を整備することは、総合的かつ体験型で取り組める環境学習のテーマになると考えました。生物の生息空間は一朝一夕にできるものではありませんので、これからも生き物の立場になって、住みよい環境の整備を地道に進めていきます。



宮ノ陣学びのビオトープのホタル水路

「池干し大作戦」昨年にも続いて実施

宮ノ陣学びのビオトープにおいて、二〇一九年十二月一日（日）、池の水質改善と生息する生き物の調査のため、「池干し」を昨年にも続いて行いました。確認した生き物の種類と数量は、昨年と同等またはそれ以上生息していることがわかりました。

コガタノゲンゴロウまだいた！

昨年十二月、池の水質改善と生息する生き物の調査のため、初めて「池干し」を行い、救出した池の生き物の中には絶滅が危惧される貴重な生き物も生息していることがわかりました。池干しは定期的に行うことで、水質の改善が図れ、生息する生物の保全にもつながることから、昨年に引き続き実施することにしました。申し込み開始日から数日余りで定員がいっぱいになるほど人気で、当日が晴れることを願うばかりでした。幸い当日は晴天で気温もあまり寒くない状況で多くの家族連れで賑やかな活動になりました。

昨年、たくさん見つかった「コガタノゲンゴロウ」が生息し続けているかを心配していましたが、心配をよそに、池に網を入れるとその中にはメダカやエビに交じってコガタノゲンゴロウも入りました。参加者にはスタッフから池から救出した生き物を種類ごとに仕分けしてもらいました。スタッフも網を上げる度に参加者から驚きの歓声が上がりました。



生き物を種類ごとに仕分けする参加者

池干し講座の概要

**タイトル** 宮ノ陣学びのビオトープ市民講座「池干し大作戦二〇一九冬」

**サブタイトル** 池の生き物が楽しくくらすための大掃除

**趣旨** 親子を対象に、宮ノ陣学びのビオトープで魚や底生動物など水辺の生き物が生息できるようにするための環境整備（池干し）を行うもの

**日にち** 二〇一九年十二月一日（日）晴

**時間** 十三時三十分～十五時四十分

**会場** 宮ノ陣クリーンセンター（久留米市宮ノ陣八丁島）

**「講話」** 環境交流プラザ 大会議室

**「活動」** 宮ノ陣学びのビオトープ  
 一・宮ノ陣学びのビオトープの水抜きした池から魚や底生動物を救出  
 二・救出した生き物の観察と解説  
 三・救出した生き物を仮設の



スタッフによる生き物救出（手前）と参加者による仕分け（奥）

**生息エリアに放流対象** 小学一年生～六年生と保護者（未就学児の兄弟姉妹の参加は可）

**参加** 先着十四組 四十三名（大人十八名、子ども二十五名）

**費用** 無料

**主催** くるめハイトラスト株式会社

**後援** 久留米市

ウスイロシマゲンゴロウ

- コウチュウ目ゲンゴロウ科の昆虫
- 平野部の植物が豊富な止水域に生息
- 背中が黄褐色で小さく黒い斑点がある
- 体長は10～11mm
- 幼虫は生きた獲物の捕食する
- 成熟した幼虫は上陸して蛹（さなぎ）になる
- 成虫も肉食
- 成虫は主に夜間に飛行して移動する



「宮ノ陣ビオトープ」に生育する木や草、生息する魚、昆虫、鳥や季節の情報をお伝えします。第7回は、「ウスイロシマゲンゴロウ」です。

表 池干しで確認した主な生物

分類	種名	数量	備考
魚	ツチフキ	約 30	2016年10月放流種、準絶滅危惧（福岡県）、絶滅危惧ⅠB類（環境省） 昨年比-約10
	モツゴ	約 100	2016年10月放流種、昨年比+約40
	ミナミメダカ	500以上	2016年10月放流種、準絶滅危惧（福岡県）、絶滅危惧Ⅱ類（環境省）、昨年同等
底生動物	ミナミヌマエビ	数えきれないくらい多数	昨年より増加か？
	ヤゴ（クロスジギンヤンマ）	約 10	
	コガタノゲンゴロウ	約 50	絶滅危惧Ⅱ類（福岡県）、絶滅危惧Ⅱ類（環境省）
	ウスイロシマゲンゴロウ	5	準絶滅危惧（福岡県）
	ヒメミズカマキリ	2	（大分県などでは都道府県別レッドデータブックに掲載されている）
	ヒメガムシ	約 10	
カワニナ	約 30	2017年8月と2018年8月の講座で放流（宮ノ陣の水路で捕獲）	
備考	外来種はオオカナダモ（水草）		

【宮ノ陣学びのビオトープ ご利用案内】

住所 〒839-0805 久留米市宮ノ陣町八丁島 2225 番

開園時間 9:30～16:30

休園日 毎週水曜日（休日の場合は翌日）、12月29日～1月3日

アクセス 車/国道322号沿い、駐車場有り  
電車/西鉄古賀茶屋駅から徒歩約15分

問合せ くるめハイトラスト株式会社  
TEL/0942-27-7515  
FAX/0942-27-7491